



平成 16 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 アリアケジャパン株式会社
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 岡田 甲子男
 (コード番号 : 2815 東証第1部)
 問 合 せ 先 常務取締役 菊島 末夫
 電 話 番 号 03(3791)3301

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 16 年 5 月 13 日の決算発表時に公表した**平成 17 年 3 月期 (平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで)の業績予想**を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 17 年 3 月期中間業績数値 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 9 月 30 日)

(連結)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	9,400	2,850	2,950	1,660
今回発表数値 (B)	9,568	2,491	2,497	1,489
増減額 (B - A)	168	359	453	171
増減率 (%)	1.8	12.6	15.4	10.3
(ご参考) 前中間期実績(平成 15 年 9 月期)	9,442	2,758	2,836	1,624

(単体)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	9,100	2,800	2,900	1,650
今回発表数値 (B)	8,933	2,423	2,442	1,440
増減額 (B - A)	167	377	458	210
増減率 (%)	1.8	13.5	15.8	12.7
(ご参考) 前中間期実績(平成 15 年 9 月期)	8,864	2,683	2,784	1,575

2. 平成17年3月期業績予想数値の修正（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（連結）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	20,800	6,300	6,400	3,670
今回修正予想（B）	20,400	5,400	5,500	3,170
増減額（B - A）	400	900	900	500
増減率（％）	1.9	14.3	14.1	13.6
（ご参考） 前期実績（平成16年3月期）	19,458	5,718	5,930	3,419

（参考）1株当たり予想当期利益（通期）97円61銭

（単体）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	19,370	6,200	6,300	3,600
今回修正予想（B）	19,000	5,300	5,400	3,080
増減額（B - A）	370	900	900	520
増減率（％）	1.9	14.5	14.3	14.4
（ご参考） 前期実績（平成16年3月期）	18,288	5,574	5,813	3,343

（参考）1株当たり予想当期利益（通期）94円84銭

3. 修正の理由

当中間期における単体および連結の業績は、前回公表した数値を下回ることになりました。

まず売上高ですが、アリアケジャパン(株)は昨年末に発生した米国BSE問題や、年初からの鳥インフルエンザ騒動により、食品業界全体への需要が停滞いたしました。さらに6月よりの猛暑の影響を受け、加工食品分野の即席麺向けが大幅な販売減となり、コンビニエンスストア向けでも、米飯物の売れ行きが極端に不振となったことにより、当社の販売に大きく影響いたしました。

また、関係会社につきましては、米国子会社を中心として計画以上の増販を行いました。当社の減少をカバー出来ず、この結果第2四半期（平成16年7月～平成16年9月）は、売上高が連結ベースで前年比約4%減少したことにより、上期を通じて前年比微増に留まりました。

また、損益面では、アリアケジャパン(株)は昨年末に発生した米国BSE問題で派生したBSE関連在庫の評価減を当上期に実施すると共に、夏場向け小袋完成品の一部在庫処理をいたしました。

更には不安定な世界情勢により石油相場の高騰に伴うエネルギーコストの大幅上昇や異常気象による一部原料の値上がりがあり、九州工場あげてのコストダウン努力にも拘らず、収益面を圧迫いたしました。

関係会社は計画どおりでありましたが、当社の減益をカバーできず、当上半期において連結ベースで前回公表数値より営業利益で12.6%、経常利益で15.4%と減益を余儀なくされました。

当下半期におきましても、石油相場の高騰や異常気象による一部原料等の値上がり傾向は沈静化する兆しも見えず、また、市況も好転するよりむしろ減速気味に推移すると考えられます。これらの客観情勢から当社は下期業績を慎重に見直いたしました。

その結果、通期（平成16年4月1日～平成17年3月31日）では連結ベースで前回公表数値に対し、売上高で1.9%、営業利益で14.3%、経常利益で14.1%、当期利益で13.6%の修正を行い、単体業績につきましても、売上高で1.9%、営業利益で14.5%、経常利益で14.3%、当期利益で14.4%の修正を行うものであります。

以上